泉のほとり

●三位一体後第十二主日

今月の詩編「第一編」

いかに幸いなことか
神に逆らう者の計らいに従って歩まず
罪ある者の道にとどまらず
傲慢な者と共に座らず
主の教えを愛し
その教えを昼も夜も口ずさむ人。

キリストの信仰を持ちなさい

ヤコブは「もしあなたがたの教会の集まりに、金の指輪をはめた立派な身なりの人が現れ、その人にはとても親切にし、みすぼらしい服装をしている貧しい人には関心も持たず、むしろ冷たくしていたとしたら、それは悪しき考えに基づいた判断である」と指摘しています。この話は単に「教会の中で差別が起こってはならない」、「差別は悪い」ということを教えているものではありません。

このたとえを話す前に「私の兄弟たち。栄光に満ちた、私たちの主イエス・キリストを信じながら、人を分け隔てしてはなりません」とありますが、直訳しますと「えこひいきによって持ってはならない。栄光に満ちた『主イエス・キリストの信仰』を」という文章です。究極的に教えているのは、えこひいきによらず、「キリストの信仰」を持つことを教えているのです。すると、立派な服装の人には親切にし、貧しい人には冷たくするようなことはできない。すなわち、ヤコブのたとえ話は単に「人を差別するな」ということではなく、キリストの信仰があるか、持って生きているのかを問うているのです。

私の知り合いの中に財力のある人が一人います。この世に属している人はそういう人が友達であると「いいな」と思うのです。それゆえ、財力のある彼の周りにはいつも人が多くいます。多くの人が友達になりたがるし、知り合いになりたいと近づいてくるのです。皆彼にはとても親切です。しかし、彼に親切だからといって、彼を心から愛しているのかというと、私にはそう見えないのです。もし彼が貧しい人であっても、今のように親切で、人が多く集まってきたであろうかと思うのです。富を除いたら、ほとんどの人が彼から去っていくと想像します。一人でも残るだろうかと思うのです。人は自分が愛し、追い求めている物を持っている人に親切です。この世の富を愛している人は、財産のある人に近づくし、友達になりたいし、親切にします。本当はその人を愛しているのではなく、その人が持っているものを愛しているのです。

人はなんと自己中心の心を持っているのでしょうか。自分の目によい人、自分の役に立つ人、頼れる人、助けてくれる人、得になる人、そういう人が自分の周りにいてほしいし、知り合い、友にしたいのです。反面、貧しい人はそうではありません。自分の役に立たないどころか、むしろ面倒なことを頼まれるかもしれない。自分を困らせるかもしれないと思うのです。自分の得になることより、損をするかもしれないと、敬遠するのです。人は自分を与えることは好まず、自分のためにはへりくだって自らを与え、惜しまない人を好むのです。

主イエスはご自身をお与えくださいました。この福音を受けていながら、教会の集まりに立派な服装をしている人には親切にし、貧しい人には冷たくしていたなら、まだまだ教会はこの世のものを愛し求めていて、自己中心の上に立っていて、ご自身をお与えになった「キリストの信仰」の上に立っていないことになるのです。この世から贖われた者たちが、またもこの世の汚れに染まるようなことにならないようにと必死に守ろうとする教師のヤコブの心は、彼らの贖い主の御心を表すもの、また今日の私たちへの御心を表していると思います。

キリストは「受けるより与えるほうが幸いである」と教えてくださいました。その「おしえ」の通り、ご自身をお与えくださいました。私が主ご自身に役に立つ者だから、得になる者だからではありません。ご自身でなければ、助けられないからです。

十字架に表された主イエスの信仰を受け継いで生きる者とされました。そのことを心に刻みつつ、この世に染まらぬように、この世に根付いた自己中心を捨てていきたい。受けるより与える人になりたい。自分を与え、隣人を自分のように愛する者。そのキリストの信仰を示す者として、天の父のご栄光を表していきたいと願います。

（ヤコブ二章一～七節 黄 允湜 牧師）

２０２５年度
教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

わたしたちのヴィジョン

主イエスの愛の中で、
愛と交わりを通して
お互いに成長する教会

《今日のお知らせ》

○礼拝後、一二時(目途)から信仰者に学ぶ会を地下ホールで行います。聖書、讃美歌をお持ちの上、ご参加ください。

○運営委員会、各小委員会がそれぞれ行われます。

《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会はお休みです。

《教育奉仕委員会より》

次週九月一四日の礼拝後の交わりの会では、七月に台湾で持たれましたコイノニア・キャンプの報告会を行います。

一一時五〇分頃から讃美の時をもち、続けて感謝の報告会をいたします。教会を代表して参加してくださった一九名の兄弟姉妹の恩物に、ご一緒にあずかりましょう。場所は地下ホールです。お待ちしています。

《交読詩篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。
(司・会)の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇一篇】

いかに幸いなことか
神に逆らう者の計らいに従って歩まず
罪ある者の道にとどまらず
傲慢な者と共に座らず
主の教えを愛し
その教えを昼も夜も口ずさむ人。
その人は流れのほとりに植えられた木。
ときが巡り来れば実を結び
葉もしおれることがない。
その人のすることはすべて、繁栄をもたらす。

神に逆らう者はそうではない。
彼は風に吹き飛ばされるもみ殻。
神に逆らう者は裁きに堪えず
罪ある者は神に従う人の集いに堪えない。

(司・会)
神に従う人の道を主は知っていてくださる。
神に逆らう者の道は滅びに至る。

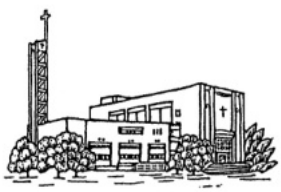
《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)
説　教「聞く耳と心を持って生きる」
聖　書　列王記下5章9～15節
説教者　宮間 彰広 兄

《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)
説　教「恵みと憐れみの神」
聖　書　ヨナ書3章1節～4章2節
説教者　宮間 彰広 兄

●主日礼拝(午前10時30分・礼拝堂)
讃美歌　8番　251番
説　教「畏れを知る信仰」
聖　書　使徒4章32節～5章11節
説教者　吉村 和雄 名誉牧師



主日礼拝 (午前１０時３０分)

讃美歌　　７４番　　２３６番
説　教　　「自由をもたらす律法」
聖　書　　ヤコブ２章８～１３節(新約 P.423)
司　式　　山下 純一　兄
聖餐司式　黄 允湜 牧師
説教者　　黄 允湜 牧師

前奏曲「我ら皆唯一の神を信ず」J.S.ﾊﾞｯﾊ

○讃美歌７４番

1.涯しも知られぬ あまつ海原を
　わたるや朝日の うららに匂いて
　み恵みあまねき 父なるみかみを
　あらわす光ぞ 日々に新なる

2.暮れゆくみ空に 月星ほのめき
　盈ちかくる影に 変るきらめきに
　ときわに変らぬ みかみの真理を
　あらわす光ぞ 夜々に明かなる

3.昼はものいわず よるは語らねど
　声なきうたごえ 心にぞひびく
　「われらの生命に まします御神の
　律法はかしこく 稜威こよなし」と

アーメン

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。

○聖歌隊による讃美

「主はわが牧者」　ハイドン作曲

主はわが牧者　われ乏（とも）しきことあらじ
主はわが牧者　われを緑の野辺に伏させ
憩いのみぎわに伴いたもう
たとえわれ死の影の谷を行くとも　災い恐れじ
主のわれと共にいませばなり
われは恐れじ
清きみぎわに　伴いたもう

○讃美歌２３６番

1.地の上にまことの さとりはひらけて
　ひとをばあいする おもいもさかえよ

2.みだれしむねにも 平和をあたえて
　むさぼるこころを 主よ、潔めたまえ

3.世人のさちをも おのれのさちとし
　たがいにたすくる こころをばたまえ

4.いくさをなげうち みわざにいそしみ
　みかみのみやこを さずかしめたまえ

アーメン

聖餐曲「タントゥム・エルゴ」Z.ｺﾀﾞｰｲ

後奏曲「父なる神よ、我らと共に住みたまえ」
J.ﾊﾟｯﾍﾙﾍﾞﾙ